

和紙の素晴らしさと可能性を
ひとりでも多くの方に
知ってもらいたい

そんな想いで 漉いています

明治・大正時代には盛んに石見製紙品評会が開かれ、石見地方(鳥根県西部)で最盛期には6,400軒もの紙漉き職人の頂点を目指して技術の向上に努めたとされ長谷村、市山村、日貫村は上位入賞者を常に輩出するほどの生産地でありました。長谷村勝地を含めた、現在の当工房がある「風の国」周辺の村々で盛んに漉かれた石州半紙は、『石州市山半紙』と言う名で市山の紙問屋から出荷されていて、柳宗悦は民藝の雑誌『工藝』にも市山半紙を採用するほど高く評価しました。



しかし、名声を高めた市山半紙も戦後急速に和紙の需要が減り、紙漉きを廃業する家が増え、昭和40年代半ばを過ぎると、伯父である「原田宏(はらだひろし)」の工房のみとなってしまったのです。

文化庁は、昭和44年に石州半紙を国の重要無形文化財に登録しようとしたが、「半紙ではなく障子紙を漉いている」という間違った情報で石州半紙から登録漏れとなってしまう、その後新たに集落の名前である「勝地」を冠した「石州勝地半紙」と名乗る事になった経緯があります。その伯父も数年前に引退し、20年前から勝地半紙の後継者として甥である私が勝地半紙の技術を踏襲し六代目として、山間部で唯一の紙漉きを続けております。



石州勝地半紙

六代目 佐々木誠
佐々木さとみ

1+1 Unlock

夫婦という関係性は、仕事に向き合うと「同志」になるんです。「1+1」意見をぶつけ合い、お互いを補い合いながら形にする物づくり。「1+1」で「2」なのか、半人前の「0.5」なのか、それとも無限なのか……。

コロナ禍という経験のない事態の不安や閉塞感、疑心暗鬼の三年間からようやく見えてきた日常という出口を前に、天に向かって伸びる、楮の力強いパワーを表現したいと強く思うようになりました。

今回の展示では、今までにない新しい勝地和紙の世界をご覧いただきたいと思っております。

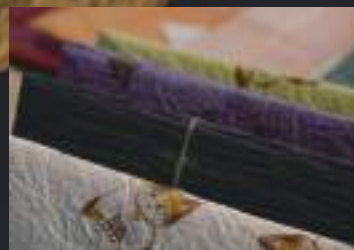


Photo by Kouhei... 2023.10

nanami.
© 2023 Photo by nanami.

石州勝地半紙「風の工房」

〒699-4431

鳥根県江津市桜江町長谷2696

TEL/FAX 0855-92-8118